

日本型アグリゲーターの役割・機能について（論点整理）

凡例：○はこれまでに出了意見等、●は事務局側で整理した今回議論してほしい論点

○ 「知的財産推進計画 2015」におけるデジタルアーカイブ連携の方向性

- 我が国におけるデジタルアーカイブ間の分野横断的な検索が可能な統合ポータルサイトの構築
- 国立国会図書館サーチと文化遺産オンラインとのアーカイブ連携の早期実現
- 書籍、文化財、放送番組、マンガ・アニメ等のメディア芸術分野ごと、又は地域ごとのアーカイブ連携の促進
- コンテンツの各分野においてアーカイブ構築の中核となる取りまとめ役（アグリゲーター）を定め、取組を強化
- 分野別又は地域別等、より利用目的を明確にしたポータルサイトの構築も可能とする基盤の整備

1 デジタルアーカイブ連携における課題

- 分野、地方によって状況は様々であり、段階的に整備する必要がある。
- 取りまとめ役（アグリゲーター）の設定が困難な分野もある。
- メタデータの推進が中小規模の機関ではなかなか進まない。
- 紙媒体でのメタデータの情報を機械可読化し、データベースで提供するには、予算と人材の問題がある。
- デジタル化しても公開まで進めることが難しい機関が地方には多い。

2 日本型アグリゲーターの役割・機能について

- 日本独自のアグリゲーターの役割・機能を考える必要がある。
- 分野と地方の両方からデジタルアーカイブの連携を進めていくのがよい。
- アグリゲーターの役割・機能には、次の点が考えられるが、日本型アグリゲーターに特有の機能・役割はあるか。また、全ての機能・役割を一つの機関が担う必要があるか。
 - ① メタデータの整備推進
 - ② メタデータの集約、API 提供
 - ③ メタデータの標準化
 - ④ 当該分野/地方のポータル整備・提供
 - ⑤ コンテンツ拡充のための所蔵資料/収蔵品等のデジタル化の推進
 - ⑥ コンテンツの長期保存協力
- 連携のためには、段階を踏んだアグリゲーターの整備が必要であるが、それぞれこういった取組が必要か。
 - ① アグリゲーターがない場合
 - ② アグリゲーターがあるがメタデータが集約されていない場合
 - ③ アグリゲーターがあり集約されていても連携できていない場合

- 特に、アグリゲーターがないところへの対応をどうするか。
⇒例えば、独法単位、事業単位など、無理なくまとまる範囲でメタデータを集約していく、ゆるやかな連携モデルが考えられるか。（下図参照）

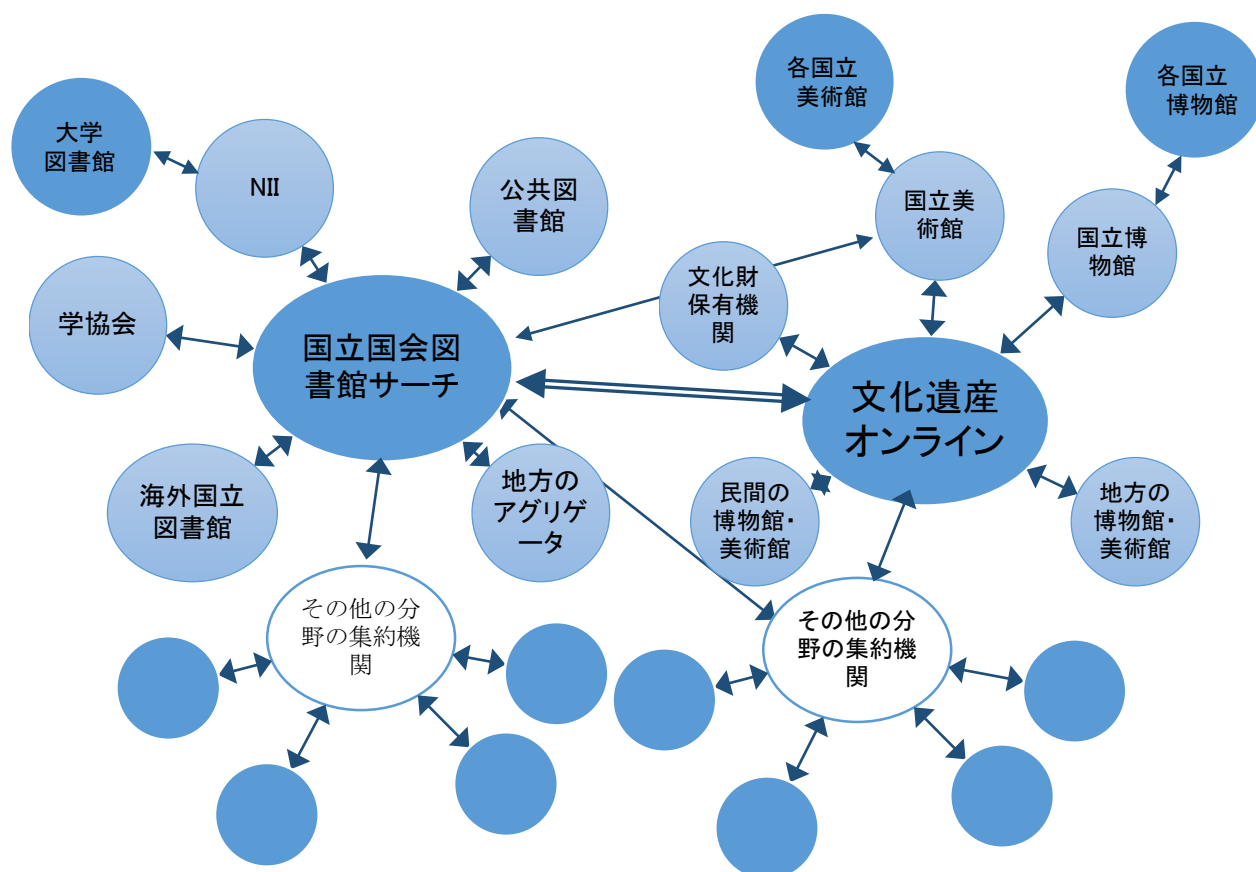


図 1 : 日本版デジタルアーカイブの連携イメージ図

(参考) 第1回議事概要からの関連発言の抜粋

○デジタルアーカイブの構築と連携に関する課題

- ・自館内に閉じたデジタル化やその公開は、金銭面の問題を別とすれば比較的ハードルは低い。だが、目録を繋ぐのは国立博物館 4 館だけでも難しい。どこかでプラットフォームを作らないと前に進まないと感じるが、東博としてはそれだけの立場や力量がなく、消極的にならざるを得ない。博物館法人の外側にプラットフォームを構築すること自体は問題ない。(東京国立博物館)
- ・文化遺産オンラインも当初はプラットフォーム的な役割を期待されていたが、体力的な問題等でその役割を果たし切れていないのが現状。(座長)
- ・メディア芸術については、メディア芸術データベースでは書誌情報と現物の所蔵館のみを掲示しているため、別途各所蔵館にアクセスして見てもう形となる。文化庁としては、書誌データの整備や原画のデジタル化に対する支援まではできるが、画像を統合ポータルにアップするということまでは難しいと考える。(文化庁芸術文化課)
- ・アクセス数を増やすにはコンテンツの充実化が重要。現状、国の重要文化財の画像ですら不揃い、作品の説明も貧弱、外国人が理解しにくい等の問題がある。(文化庁伝統文化課)
- ・メタデータ推進に関し、組織的に大規模なところはともかく、中小規模では難しいという状況もよく聞く。物の所蔵、メタデータの作成、その発信・活用の全てを同じ組織が担うことに無理があるように感じる。(座長)
- ・物の大きさや材質等の基礎的な情報についてのメタデータ化は、現物を見て行う必要がある場合が多く、基本的に所蔵館が行うべきであり、博物館機能として最小限の情報であっても自ら発信していくべきと考える。(東京国立博物館)
- ・美術館がこれまで大量に作ってきたメタデータの多くは紙媒体であり、機械可読になっていない。データベースの整備には人材の問題もある。紙媒体の情報を機械可読化するための同意と資金的援助が得られれば、公開されるメタデータ量は一気に増加可能。(国立近代美術館)
- ・ここ数年、地方でもデジタル化に予算が付き始めており、必要性も認識されてきているが、デジタル化したところで終わって放置されている場合が多い。デジタル化したデータを公開する仕組みが必要だが、各機関がなかなかそこまでたどりつけないようだ。(山崎)

○アグリゲーターについて

- ・アグリゲーターの役割はデータを集める方法を標準化すること。加えて、利活用の際に、誰かが情報を上げれば関連情報を返すような双方向に情報をつなげることも重要な役割。(座長)
- ・アグリゲーターの定義もきちんとする必要がある。企業や NPO 団体でもデジタル化を始めており、分野ごとのアグリゲーターだけでは漏れが生じる可能性がある。地方のアグリゲーターも重要。縦、横の両方向からアグリゲーターの存在を検討した方が良い。(山崎)
- ・アグリゲーターについての概念が曖昧であり、日本の現状に対してどう適用すべきか、もう少し整理し決めていく必要がある。(国立国会図書館)
- ・「アグリゲーター」という名称自体についても本協議会で考えていければ良い。アグリゲーターは一つの組織で担う必要もなく、NPO や役所が分担することもあり得るだろう。(座長)
- ・一つのコンテンツが複数のアグリゲーターを通じて収集されるケースは存在しており、Europeana でも重複コンテンツがあることは認識されているが、その辺りはある程度おおらかに進めているようである。国や地域ごとの縦軸と、分野ごとの横軸という両方から、まずは少しでも広く網羅することを重視して収集を進め、重複の問題は後から解決していくということだと理解している。(生貝)
- ・テーマごとに集めるために、何らかのポータルに繋がっており、当然重複がある。Europeana は登録件数こそ多いものの、各情報の質に凹凸感があるというデメリットが指摘されている。発信の形を統一した上でデータが収集できると質は統一されるかもしれないが、それぞれのやり方に良し悪しもある。日本は欧州と違い、一国でできるのであるからもう少し上手く出来ると良い。(座長)